

災害ボランティアセンター の限界と可能性

「遊動化のドライブ」を駆動するために

頼政良太（兵庫県立大学減災復興政策研究科 博士後期過程）

宮本匠（兵庫県立大学減災復興政策研究科）

災害ボランティアセンターとは？

『手伝いたい』ボランティアを募集し、 『手伝ってほしい』被災者とつなぐ窓口
(全国社会福祉協議会HP)

災害時に設置される被災地の防災ボランティア活動を円滑に進めるための拠点
(内閣府HP)

主な役割は、「被災地のニーズの把握」「ボランティアの受入」「人数調整・資機材の貸し出し」「活動の実施」「報告・振り返り」

→近年では、地域の「社会福祉協議会」が主体となって設置することがほとんどである。



災害ボランティアセンターの受付の様子
2020年7月大分県日田市 筆者撮影

災害ボランティアセンターの活動

| 災害ボランティアセンターを通じて行われる活動 | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 屋内・屋外片付け | 被災住民宅の片付け、家具の移動、屋外の瓦礫やゴミの片付け |
| 物資の仕分け・配布 | 避難所や物資置き場での救援物資の仕分けや配布 |
| 避難所運営支援 | 炊き出し、洗濯等 |
| 話し相手 | 避難者や福祉施設の「要配慮者」の傾聴や心理ケア |
| 被災住民の安否確認 | 被災地で安否が確認されていないお宅への訪問など |
| 情報提供支援 | 生活関連、福祉・医療関連の情報発信（チラシやニュースレター、FM放送など） |
| 買い物 | 在宅避難者、避難所にいる方などの買い物代行 |
| 引っ越し | 仮設住宅への引っ越しの手伝い |
| 復興期の支援 | 地域おこしの手伝いなど |

災害ボランティアセンターだけでは支援が届かない

公的な災害ボランティアセンターでは、マニュアルを整備するなどして、おおよそその支援の範囲が決められてきた。

しかし、その範囲から外れる被災者への支援が届かないという問題が指摘されるようになった。

例えば、災害ボランティアセンターだけでは、障害者や外国人などのニーズに対応することができないことが指摘されている（大阪ボランティア協会，2016）。

大阪ボランティア協会(2016).災害時のスペシャルニーズ支援事業 災害時におけるとっておきの配慮（＝スペシャルニーズ）に応えるためのモデル構築事業 2016年度報告書 大阪ボランティア協会



このような壊れた家で暮らす在宅被災者の方への支援も課題となっている
2019年8月佐賀県武雄市 筆者撮影

災害ボランティアセンターのシステムの硬直化

■筆者が活動していた熊本県西原村での出来事

災害ボランティアセンターからやってきたボランティアに作業をしてもらっていたところ、向かいの家の方から「うちもボランティアに手伝ってもらいたい」というお話があった。

作業していたボランティアを2班に分けて、向かいの家の作業にも取り掛かってもらおうとしたが、「災害ボランティアセンターを通して
いないので、活動はできない」とボランティアに断られてしまった。

→このように、（災害ボランティアセンターというシステムの）秩序
を守るうとして硬直化することで、かえって被災者の救援活動ができ
なくなることを、渥美（2014）は「秩序化のドライブ」と呼んでいる。

秩序化のドライブと遊動化のドライブ

| | 秩序化のドライブ | 遊動化のドライブ |
|---------|-----------|----------|
| 被災者 | 中心にはいない | 中心にいる |
| 臨機応変な対応 | 出来るだけ回避する | 即興的に対応する |
| 秩序 | 守ろうとする | 必ずしも守らない |

システムの硬直化を乗り越えるためには遊動化のドライブを駆動することが必要
なぜシステムの硬直化が生じるのか？どのように遊動化のドライブを駆動させるのか？

なぜシステムの硬直化が生まれ、被災者に支援が届かないのか？

社会福祉協議会をめぐる3つの制約

| | |
|--------------|---|
| 制度的制約 | <p>(1) ボランティア保険：ボランティア保険の適用範囲が決められており、それ以外の活動を行うことができない</p> <p>(2) 委託業務の増加：委託業務外の活動である災害ボランティアセンターの活動では賃金をカットされてしまう恐れがある。</p> |
| 組織的制約 | <p>地域防災計画等での位置付け：地域防災計画に位置付けが明記されているため、行政の判断を待たなければ設立ができない場合もある。</p> <p>(行政からの要請がなければ、予算がつかないケースもある)</p> |
| 資金的制約 | <p>日頃の収入面での体制：介護保険事業で大半の収入を得ている場合、業務を停止すると収入がなくなる。委託業務を多く受けている場合も同様。</p> |

これら3つの制約から、災害ボランティアセンターの運営は、即興的に被災者中心で組み立てるのではなく、秩序化され早くボランティアセンターを閉鎖するという方向へ傾いていく

遊動化のドライブを駆動するためには

社会福祉協議会本来の役割への注目

全国社会福祉協議会のHPより（下線は筆者）

高齢者や障害者の在宅生活を支援するために、ホームヘルプサービス（訪問介護）や配食サービスをはじめ、さまざまな福祉サービスをおこなっているほか、多様な福祉ニーズに応えるため、それぞれの社協が地域の特性を踏まえ創意工夫をこらした独自の事業に取り組んでいます。

社会福祉協議会では、福祉ニーズにある人に対して、制度の組み合わせやボランティアのコーディネートを通して、必要な支援を届ける工夫を凝らしている。

→遊動化のドライブによる支援活動

どのように遊動化のドライブを発動させるか？

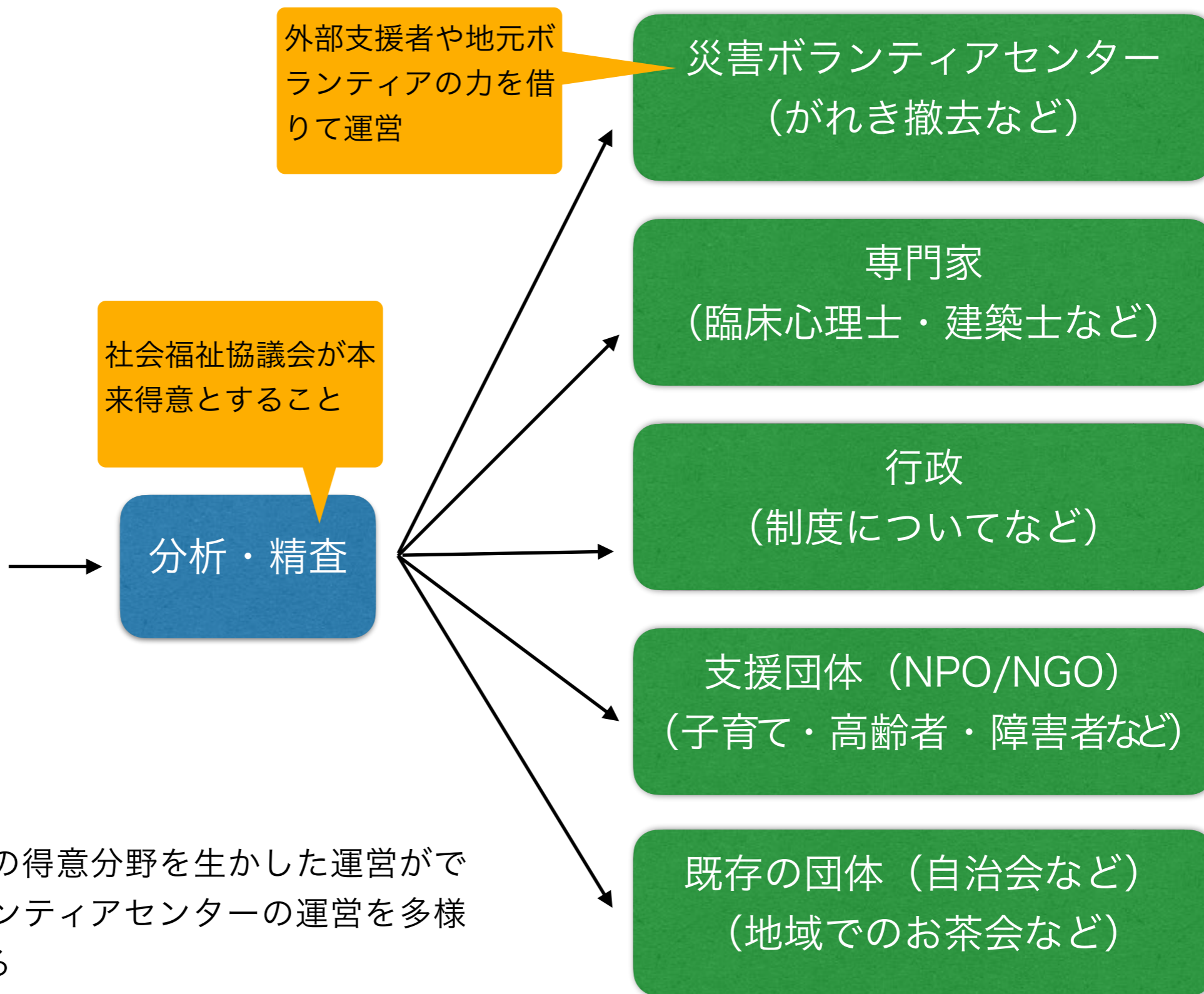
社会福祉協議会の本来の力を発揮するには？

本来、遊動化のドライブを駆動させて支援活動を行なっている社会福祉協議会であるが、3つの制約によって災害ボランティアセンターに秩序化のドライブが駆動されるようになる

災害時においても、社会福祉協議会の本来の遊動化のドライブが駆動するための環境を作ること、秩序化のドライブによる弊害、すなわち被災者に支援が届かない、という事態を回避することができる。

遊動化のドライブを駆動するために

被災者の困りごと
(多様なセクター
が活動することで
困りごとを漏らさ
ず拾う)



社会福祉協議会の本来の得意分野を生かした運営ができるように、災害ボランティアセンターの運営を多様化することが重要である